

前回のご指摘を踏まえた モデル授業案修正の方向性等について

厚生労働省政策統括官（総合政策担当）付
政策統括室

論点1：モデル授業で取り上げる社会保障制度の題材等について

(主な御意見)

- 公的年金制度・公的医療保険制度といった縦割りの題材の取扱い方のみならず、社会保障制度全体の総論的な内容を加えるべきではないか。
- 社会保険の仕組み・意義について教える内容を加えるべきではないか。
- 自分ごとと考えられる題材で生徒の関心を引き付けることが必要ではないか。



[修正の方向性]

- 導入では、生徒が社会保障制度を自分ごとと捉えられる題材を取り上げる。
 - ・ 「わたしと年金」エッセイ
 - ・ 健康保険被保険者証や診療明細書 など
- 社会保障制度は人生を通じて生活を守っている身近なものであることを紹介する。
 - ・ 人生における様々なライフイベントの備えを社会化したものとして社会保障制度があること
 - ・ 出産、子育て、介護などの場面でも社会保障制度が役立つこと

(参考) 授業構成イメージ

公的年金制度 (標準型)	公的年金制度 (熟慮型)	公的医療保険制度 (標準型)	公的医療保険制度 (熟慮型)
(導入) 社会保障制度に関する自分事と考えられる題材を取り上げる			
(展開)	(展開)	(展開)	(展開)
(展開) 社会保障制度は人生を通じて生活を守っている身近なものであることを紹介する			
(まとめ)	(まとめ)	(まとめ)	(まとめ)

論点2：標準型の授業の難易度等について

(主な御意見)

- 標準型の授業について、基礎的な内容を習得する生徒を想定した場合、更に簡単な内容にすべきではないか
- 難しい文言は生徒にも、現場教員にも理解が困難ではないか。



[修正の方向性]

- 標準型のモデル授業案で扱う知識・制度については、学習指導要領や教科書で取り上げられている事項等を鑑みたうえで、より簡単な内容とする。
 - ・ 難しい用語は使わない。
 - ・ 取り上げる制度などを最小限にする。

<現場教員の負担軽減等>

(主な御意見)

- 現場教員の負担軽減を図るため、モデル授業案に係るモデル試験問題を作成することが望ましい。
- 生徒の学習到達状況を評価するための評価基準（ルーブリック評価等）を示すことが望ましい。
- 現場教員自身の社会保障に係る勉強時間の確保が難しいのであれば、社会保障に精通している外部講師（社会保障制度を学んでいる大学生等）を活用することも考えられる。

<オンラインの活用について>

(主な御意見)

- 外部講師の活用にあたっては、オンラインで講師と教室を結ぶなど、オンラインの活用が考えられる。
- 生徒の興味を引き出し、自ら学ばせるために、YouTubeなどを授業で活用できれば面白い。
(ニューヨークの学校ではYouTubeを積極的に活用し、主体的に学び、理解したことをアウトプットする機会が充実していた。)

<その他>

(主な御意見)

- 広報（教育を含む）を推進するにあたって、政府や団体が生徒に対して、自分の仕事内容を淡々と説明するという発想は生徒の関心をひくのが難しく、広報としては失敗である。